

■8月1日

PEACH(LCC)、那覇—台北線就航、那覇空港第二の拠点空港へ

ピーチ・アビエーションは31日、9月20日から那覇—台北桃園線に1日1往復で就航すると発表した。同社にとって関空以外では初の国際線で、9月13日に就航する関西—釜山線に続く5路線目の国際線路線となる。

これを手始めに同空港から東南アジアなどへの国際線を手厚くする計画。井上慎一・最高経営責任者は「那覇空港を関西国際空港に次ぐ第2の拠点にしたい」と述べた。

基本運賃は片道4780～2万1580円。座席指定や予約変更の手数料が無料になる「ハッピーピーチ プラス」は7280～2万8880円。8月1日に販売を始める。

また就航を記念して、キャンペーン運賃での販売を8月2日から開始する。

* PEACHプレスリリースより

(日経)7/31

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD310BW_R30C13A7TJ1000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD310BW_R30C13A7TJ1000/)

(トラベルビジョン)7/31

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58453> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58453>)

(PEACHプレスリリース)7/31

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/130731-Press-Release-J1.pdf> (->

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/130731-Press-Release-J1.pdf>)

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/130731-Press-Release-J2.pdf> (->

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/130731-Press-Release-J2.pdf>)

スターフライヤー、6月利用実績、国内線55.4%、国際線61.5%

スターフライヤーは31日、6月の旅客利用実績を発表した。

これによると、国内3路線合計の搭乗者数は10万149人で前年比23.6%増加した(供給は40.66%増)。利用率は55.42%と、前年同月と比べて7.7ポイント低下した。

羽田空港の発着枠配分を受けて増便した羽田—福岡線は提供座席が前年同月比約2倍となったが、旅客数は62.1%増で、利用率は前年同月よりも12.8ポイント下がった。

羽田—関空線は旅客数も56.5%増で、利用率は76.9%の高搭乗率となった。

一方、国際線の北九州—釜山線は搭乗者1万976人、利用率は先月とほぼ同じ61.5%(5月61.2%)だった。

(スターフライヤー プレスリリース)7/31

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/20130731004114.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/20130731004114.pdf>)

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/20130731004114.pdf>)

デルタ航空CEO、日本拠点空港を「成田から羽田へ」

(産経ニュースによると)

デルタ航空のリチャード・アンダーソン最高経営責任者は31日、都内で記者会見し、日本国内の拠点となる空港を「成田から羽田に移す用意がある。都心に近い空港の方が便利なのは明らか」と話した。

国土交通省は来年の夏ダイヤで、羽田空港の昼間の時間帯の国際線発着枠を3万回、増やすことで各国当局と調整を進めている。1日あたり約40便となり、国内航空会社と海外航空会社とで20便ずつとする方針。

アンダーソンCEOは「羽田で将来的にオープンスカイが実現すれば、実際に成田から拠点を移せるだろう。その際にはデルタとして1日25便が必要になる」とした。

(産経ニュース)7/31

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130731/biz13073116300012-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130731/biz13073116300012-n1.htm>)

デルタ航空、ロサンゼルス空港発着、国内線4路線新設、9路線増便

デルタ航空は25日、9月3日より順次、ロサンゼルス国際空港発着の国内線4路線を新設するとともに、既存9路線での増便を実施すると発表した。同社は現在、ロサンゼルス国際空港から40都市に向けてピーク日に115便を運航している。

また同社は、ロサンゼルス国際空港の第5ターミナルの改装を進めており、ロビーエリアおよびセキュリティチェックエリアを2倍に拡大。優先サービス「スカイプライオリティ」対象のお客様専用のロビーとセキュリティチェックレーンの設置、空港ラウンジ「デルタ スカイクラブ」および預け入れ手荷物用コンベアの改装を行う計画だ。

(デルタプレスリリース)7/31

EADS、ブランド名を「エアバス」に変更

EADSは31日、主要事業である民用機製造子会社の名称を採用して商号を「エアバス・グループ」に変更する計画を明らかにした。

さらに、現在は民用機部門と対になっている防衛部門と宇宙部門をまとめて「エアバス・ミリタリー」に再編。世界最大のヘリコプター製造部門は「エアバス・ヘリコプターズ」に商号を変える。ブランド力を高め、米航空機大手ボーイングに対する競争力を向上させるのが狙い。

(ロイター)7/31

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE96U07420130731> (->

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE96U07420130731>)

アエロフロート航空、LCC設立を計画

アエロフロート・ロシア航空が、2014年にも新たな格安航空会社を設立する方針であることがわかった。同航空会社は7月25日、格安航空会社の設立が「不可欠」であるとの見解を示し、プロジェクトの一部を明らかにした。

アエロフロートによると、新会社のハブ空港はシェレメーチエヴォ国際空港かモスクワ南西部にあるヴヌーコヴォ国際空港を予定しているという。

使用機材はエアバスA320、もしくはボーイング737NGが候補にあがっていることがわかった。

また航空料金は、現在のアエロフロートの正規料金よりも2割から4割安くなるという。

(フィールドプロモーション)7/31

http://www.field-pr.net/news_b9GRDzbV8e.html?right (-> http://www.field-pr.net/news_b9GRDzbV8e.html?right)